

DITATooによって広がるFrameMaker® DITAオーサリングの世界

バージョン11のリリースによって、FrameMakerは、より完全でフレキシブル、且つハイブリッドな、構造化オーサリングとプロフェッショナルパブリッシングの役割を併せ持つ、業界唯一のツールとして成長しました。また、企業レベルの運用において望まれるCMS（コンテンツ管理システム）との連携も、新しい汎用CMSコネクターフレームワークの登場によって、CMSベンダーの開発工数を減らすことに成功しました。今回のテクニカル白書では、DITA CMSとの連携事例として、この秋から国内での展開が始まるイスラエルのIntuillion 社開発のDITA CCMS（コンポーネントコンテンツ管理システム）パッケージ製品であるDITATooを取り上げます。

今回のテクニカル白書では、導入が容易で、他の多くのCCMSやCMSと異なる、新しい設計思想で開発された、スモールグループ向けのDITA CCMS製品であるDITATooについて解説します。DITATooは、これまでに製品としてリリースされていたDITA CCMS製品とは異なり、ベンダーが提供する独自のコネクターやブリッジアプリケーション経由でリポジトリにアクセスするのではなく、FrameMakerがデフォルトで提供している**CMS 接続マネージャー** 経由でリポジトリに接続されます。よってユーザーは、FrameMaker単独での利用と何ら変わりのないオーサリングユーザーインターフェースでCCMS機能を利用することができます。また、デスクトップクライアントアプリケーションも操作性が非常に容易で、CCMS環境のセットアップ自体も非常に簡単であるという点も他のDITA CCMSとは、大きく異なります。FrameMakerからコネクター経由のDITATooへの接続は、無償で提供されるDITAToo FrameMakerコネクターから可能になります。

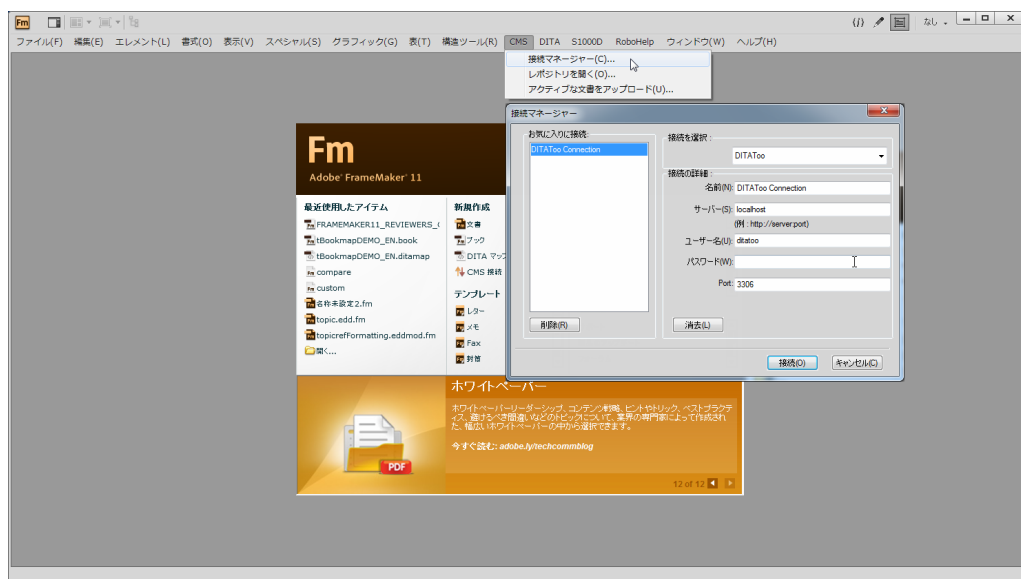


図1
接続マネージャー

DITATooの特長

DITATooは、これまでその価格帯のためにCCMSに手を出せなかった企業のコンテンツ開発者やFrameMakerのDITA機能をより実務レベルで活用したいと考えている制作会社などを対象に、トピック単位のコンテンツ管理と共有（再利用）メリットが享受できるようにと開発された低価格のCCMSソリューションです。製品のコンセプトとしては、取扱い説明書を作成している部署のみならず、営業、マーケティング、サポートなどが、DITATooを介してトピック単位のコンテンツを共有していくことを目指しています。そのため、MSワードファイルをCCMSへインポートする際に、DITATooがファイルを解析してDITAへの変換を自動的におこなうという、他のDITA CCMSにはない、DITAToo独自の優れた機能を持っています。通常この種の変換には、MSワード上で予めスタイル付けが必要になるのですが、DITATooでは、スタイル付けは必要ありません。インポート後は、FrameMakerなどのDITAオーサリングツールで作業を継続することができます。

DITATooのユーザーは、役割によって異なる3つのライセンスのタイプをそれぞれ購入してDITATooを利用します。

ライセンスのタイプ	
DITATooアドミニストレーター	導入環境に最少1ライセンスが必要で、リポジトリのディレクトリ構造、アカウント作成、アクセス制限を構成できます。DITATooオーサーの機能を含んでいます。
DITATooオーサー	コンテンツ作成者としてDITAコンテンツを追加、管理、パブリッシュすることができる基本ユーザーライセンスです。
DITATooアレンジャー	コンテンツの閲覧（プレビュー）や目次構成（マップ）の修正、最終レビューのためのパブリッシュなど、DITAを知る必要のないユーザー向けの限定ライセンスです。

DITATooは、オープンソースのデータベースMySQLをリポジトリとして実装し、オープンなJavaや.NET Framework技術を使い開発されています。高度なネットワークやデータベース管理スキルを持っている担当者の必要性はありません。次期バージョンのDITATooでは、ユーザー数の増加に伴うパフォーマンスの向上がおこなわれていますが、小規模から中規模の環境においてはその導入や運用のしやすさを考慮すると、すでにFrameMakerを所有している場合、圧倒的にコストパフォーマンスの高いDITA CCMSと捉えることができるでしょう。

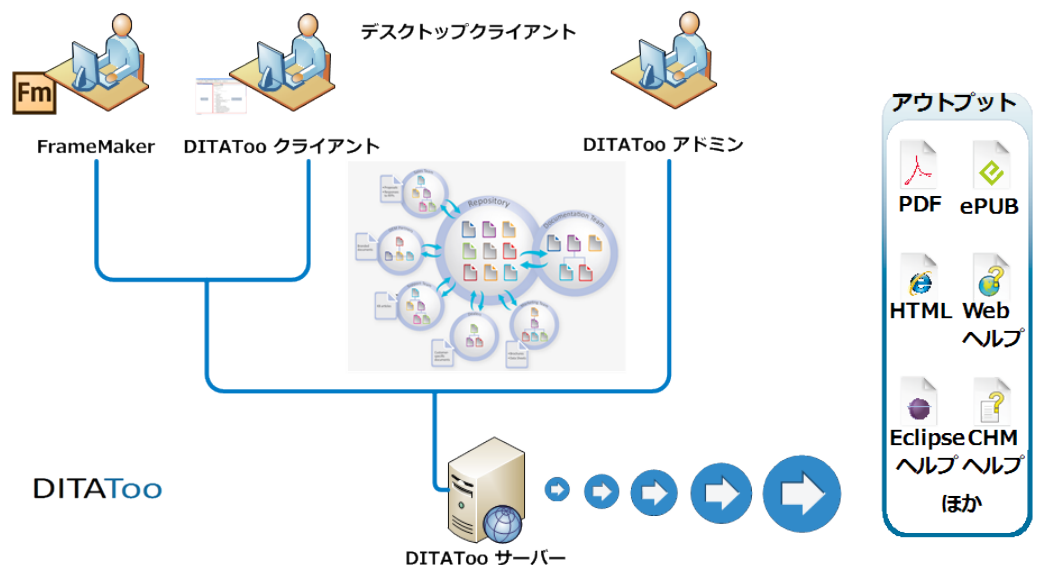


図2
DITAToo システム構成